

平成 2 2 年 2 月

[配布先：全組合員]

## 市場情報

### <各地区市場動向>

#### 北海道

##### 冷え込む道内需要

「雪まつり」は、1950年に地元の中・高校生が六つの雪像を大通り公園に設置したことをきっかけに始まり、雪合戦、雪像展、カーニバルなども合わせて開催、予想以上に大盛況。以降、札幌の冬の行事として定着し、2010年、第61回を迎えるさっぽろ雪まつり。約300基の大小様々な雪氷像が大通り会場など3箇所で皆さんをお出迎え、200万人以上の観光客で賑わい、大きな経済効果が期待されています。

道内の需要構造の中心である建築の冷え込みは著しく、冬季山積状況は非常に厳しい。一部のHファブを除き、各社の工場稼働率は50%～70%内外と二極化している。鉄骨の先行きを示す道央地区の積算数量は1月1万1000トンで、前年比140%、平年比84%、物件が除々に出始めた感はある。地方でも、年明けから若干の新規物件の見積もりが出るものと期待されていたが、ゼロに等しく先行き見通しが立たない状態である。今年度の橋梁も期待された発注数量に届かず、ゼロ国・補正予算に期待している。

シャー・溶断業界も、建築鉄骨、橋梁の落ち込みで各社とも切板の販売状況は極度に落ち込んでいる。物件が除々に出始めたとはいえ、大幅な需要回復の兆しは見えず、量的な枯渇感は顕著であり、一部には出血垂れ流しの状態から、自殺相場も散見される。厳しい冬の不需要期、与信問題とともに、需要減による在庫問題と今後も一層多難な環境が続く。

(玉造 株・西村卓也)

## 東京

## 底が見えない建材需要

昨年末から年初にかけ、寒波の影響か例年より寒さが厳しく感じられます。

来年度の建材需要はどうか、予測するだけで気の引き締まる思いです。昨年4～12月の東京支部建材部会の生産実績は、橋梁が前年同期比▼23.2%、鉄骨が同▼2.3%、合計では同▼21.1%と、橋梁中心に減少し続けています。本年度も、特に橋梁は公共投資の縮減、政権交代での見直しなどで更に減少するとみられています。橋梁の底がなかなか見えず、今後どうなるか全く不透明です。鉄骨も首都圏案件の出件は夏以降と言われており、22年上期の受注は大幅に減少しそうです。以上のことから22年度も引き続き建材は、底が見えない寒い時期が長く続きそうだ。

(富士鉄鋼センター・水城正博)

## 東京

## 冷鉄源と中国

以前に中国と触れ合ったことがあります。95年から何年かの間、行ったり来たりした時がありました。あの頃は、中国は日本からの誘致を求めて必死でした。日本も安い労働力と将来を見据えて進出を積極的に考え始めていた時期でした。当時、中国に対して言われていた言葉は5つの「あ」でした。「あせらず」「あわてず」「あてにせず」「あなどらず」「あきらめず」「井戸を掘った人を忘れない」という毛沢東の言葉もよく引用されていました。

今、冷鉄源から見ても中国は最大の市場になっています。09年、過去最高の940万トンの冷鉄源輸出の内、中国向けが500万トンに達しました。今年に入って2/13～16の旧正月の手当てとして購入を強化した為、現在の成約残は60万トンになっています。1月中旬まで価格上昇した背景はそこにありました。足元、輸出商談は多少軟化傾向にありますがFOB@31.0前後の高値の約残があるお陰で未だ船積み価格が下がっておらず堅調に推移しています。又、域内電炉メーカーの購入価格は過熱する浜値を睨みながらメーカー毎に異なる在庫事情、立地事情、減産状況に応じて価格を打ち出している為、@27.5～30.0の市況になっています。

経済大国になった中国を初めとして、アジアが元気であるのは非常に喜ばしいことですが一方、国内オンリーの我々はどうしたら良いのか毎日腕を組んでいる状況にあります。

基本の「早い」「旨い」「安い」の原点を全うする為に、今一度「体力」「気力」「知力」を奮い立たせたいと思っています。

(山惣熔断・根本泰伸)

## 東 海

### 悪い予感

今年新年の東海地区、鉄鋼賀詞交換会でちょっとした驚きがありました。私だけが感じた事かもしれませんが、鉄鋼メーカーの方々の顔色が想像以上に明るかったのには正直驚かされました。

まだまだ我々熔断業界は需要低迷、価格下落とお先真っ暗の状態が続く中、川上のメーカーは東南アジアの堅調な需要に支えられ輸出好調で、値上げの話もチラホラ聞こえてきます。

去年一年間は在庫調整に苦しめられた一年間でありましたが、今年はやっと在庫調整に目処が立ち始めた中、今度は材料の値上げに苦しむ悪い予感が致します。

国内需要は弱く、特に設備関連中心の当地区の回復は、来年以降との話があり、又ユーザーからのコストダウン要求は益々強くなり、切板価格の改善は難しい中、材料高の成品安で昨年以上に厳しい年になりそうな気が致します。

(株玉造 名古屋・小林道明)

#### 市場委員会の次回開催予定

第144回市場委員会

3月12日(金) 正午～

於 東京・鉄鋼会館